

葛南教育事務所だより

千葉県教育庁葛南教育事務所
〒273-0012 船橋市浜町2 -5 -1
Tel 047-433-6017 Fax 047-433-3169



学校訪問を終えて 【指導室】

令和3年度は学校訪問を、「合同訪問」54校（訪問46校・オンライン等8校）「課題別訪問」11校（学力向上・生徒指導・特別支援教育）の計65校で実施しました。また、「要請訪問」を、授業研究・特別支援教育等、オンラインでの実施を含めてのべ107回実施し、校内研修当日や通年で助言・支援をしました。訪問関係資料の準備とともに、当日も大変丁寧に御対応いただき、この場を借りてお礼申し上げます。以下、当室の重点目標に照らし、取組状況を報告します。

（1）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた『授業改善』

- ① 訪問校の授業では、ペアや少人数の対話やタブレット型端末を用いた対話機能等により、学び合う「対話的な学び」の場面を設定し、児童生徒一人一人の学びを進めたり広げ深めたりすることを意図した授業展開が多く見られた。また、自分の言葉で学習のまとめや振り返りを書く時間を位置付ける等、「主体的な学び」や「次につなげる学び」を意図した授業構成を図る実践が進んでいる。
- ② 「ちばっ子の学び変革」推進事業における検証協力校においては、平成31年度の「全国学力・学習状況調査」の自校の結果分析に基づいて設定した仮説をもとに、今年度の調査結果を踏まえつつ実践が進められた。他の学校においても、分析結果を共有し、全校体制で『授業改善』に生かしていくことを一層推進する必要がある。
- ③ 近隣の保・幼・認定こども園、小・中・義務教育・特別支援学校の情報交換や情報共有が、中学校区を中心に各学校段階間で図られている。引き続き、発達段階を見通した「次につなげる学び」を推進していく。
- ④ 家庭学習を充実させる意識が高まっている。保護者向け冊子の作成や「家庭学習強化週間」を設定するなど、保護者への啓発を図るとともに、地域人材等のボランティアを活用し家庭学習の習慣化につなげる学習会の実施や、ICTを活用した家庭学習を推進する取組が見られた。また、児童生徒がタブレット型端末を自宅に持ち帰り、学習課題等を配信したり、登校できなくても学校と自宅をつなぐ手段として活用したりするなど、学びを止めない取組が進められている。

（2）いじめ及び不登校の未然防止の推進

- ① 各学校が組織的かつ迅速に対応する事例が増えている。より機能的な組織体制づくりを推進していく必要がある。
- ② 年度の早い時期に計画的に「SOSの出し方教育」を行う学校が増えている。また、教育相談の機会を増やす等、全校体制で児童生徒理解を図る取組が多く見られた。併せて、不登校の未然防止に力を入れる学校が増え、関係者・関係機関を含めたケース会議を開く学校が増えている。
- ③ 担任と児童生徒、児童生徒同士の関係構築や集団生活の意義を実感できるような生徒指導の機能を生かした「わかる授業」の展開とともに、学年・学級経営の充実に向けた意識が高まってきている。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた『授業改善』が、生徒指導の機能を生かした「わかる授業」につながることもあり、一層の改善が進められている。
- ④ 児童生徒の課題解決に向け、積極的に関係機関との連携を図る事例が増えている。

（3）特別支援教育の推進を支える学校体制づくり

- ① 各学校では、特別支援アドバイザーや巡回相談員等を積極的に活用し、様々な関係機関との連携を図るなど、効果的な支援体制が構築されてきている。教職員の特別支援教育に関する専門性向上のための取組を続けていく必要がある。
- ② ユニバーサルデザインの視点を取り入れたわかる授業づくりを指導の重点に位置付け、全校体制で取り組んでいる学校が増えている。支援の必要な児童生徒への具体的な手立てについて、教職員同士の理解を更に深めていく必要がある。
- ③ 特別支援学級に在籍する児童生徒や通級による指導を受ける児童生徒について「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の作成義務が周知され、適切に作成・活用・管理されている。各計画が効果的に活用されていくための工夫や、中学校から高等学校への引継ぎが円滑にできるための工夫が必要である。

（4）地域とともに歩む学校づくりの推進

- ① 学校評議員や学校運営協議会のメンバーに学校関係者以外の自治会長や民生児童委員、公民館長、地元企業の方を招いている学校が増えてきている。教育目標を地域と共有しようとしている状況がうかがえる。
- ② 家庭教育学級に県の研修講座を利用したり、公民館が主催する各講座を紹介したりするなど、家庭教育支援をしている学校が見られた。



令和4年度新規採用教職員採用事務打合せ会の実施

【管理課】

令和4年2月14日から4日間にわたり、採用事務打合せ会を行いました。令和4年度の本管内における新規採用者は小学校教諭197名、中学校教諭96名、特別支援学校教諭18名、養護教諭12名、事務職員14名、栄養教諭2名、栄養職員2名、計341名です。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため昨年度同様に1回当たりの人数を減らし、計8回にわたって行いました。同ウイルスが広がる前まで行っていました1年目や若年職員を交えての質疑応答による交流、所長・管理課長・指導室長から教職員としての心構えやこれからの準備についての訓示は、紙面と代読により、時間短縮と参加人数を極力控えて実施しました。

神子所長からは、楽しく充実した教員人生を歩んでいくために、「いつも明るく元気に前向きに」「言行一致」「不祥事根絶」の三つの視点から、失敗を恐れず楽しむ気持ちをもって力を合わせて頑張ろうというメッセージを贈りました。

また、短い時間でしたが一人一人との面談も行いました。不安に思っていることや今知りたいこと、確認したいことなど新規採用者の皆さんの実直な思いを聞き取ることができました。

新卒者はもちろん、講師経験者や社会人経験のある方など個性豊かなチーム葛南の新しい仲間となる皆さん。子供たちが皆さんとの出会いをドキドキしながら待っています。

令和4年度新規採用教職員となられる皆さんへ

千葉県教育庁葛南教育事務所
所長 神子 純一



葛南教育事務所長の神子です。本来であれば、皆さんの前で御挨拶申し上げるところですが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から研修会を中止としたため、紙面にて御挨拶申し上げます。

令和4年度新規採用、誠におめでとうございます。また、勤務地として葛南地区を選んでいただきありがとうございます。

この葛南地区は、児童生徒数が約12万人、教職員（本務者）が約6千5百人と、県内で最も人数の多い地区です。これから皆さんは、葛南地区教職員の仲間入りをするようになります。楽しみですね。

ぜひ、皆さんには、楽しく、充実した教員人生を歩んでいただきたいと思います。そのためにということで何点かお願いをさせていただきます。

<いつも明るく元気に前向きに>

いつも明るく元気にふるまっていると、自然と周りに人が集まり、子供たちや、教職員、保護者との人間関係をうまく作ることができます。子供たちに明るく元気に活動させたいければ、まずは教師が明るく元気に取り組むことが大切です。

授業がうまくいなくても、仕事が思うように進まなくても、くよくよする必要はありません。「うまくいなくて当たり前」「日々是勉強」の精神で、いつも前向きに、向上心をもって物事に取り組んでほしいと思います。

<言行一致>

子供たちに指導したことは、教員自身もしっかり行わなければなりません。

例えば、時間にルーズな先生が、子供たちに時間を守るように指導しても、子供たちは聞く耳を持たないでしょう。また、挨拶をしっかりとできない教員が挨拶の指導をしても徹底は厳しいでしょう。

教職員は、子供たちの鏡であり手本とならなければいけません。ぜひ、「自分が言ったこと」と「自分の行い」を一致させていただきたいと思います。

<不祥事根絶>

自分が不祥事を犯したときの状況を想像してみてください。

(二度と教壇に立てなくなるかもしれません。本人だけでなく、他の教職員、学校自体の信頼が根底から崩れ落ちます。新聞に自分の名前が載り、自分の家族も周りから白い目で見られます。そして何よりも、目の前の子供たちを裏切ることになります。)

人生を棒に振るようなことは絶対にしてほしくない。だからこそ、もっと想像力を働かせ、切実感と当事者意識を持って日々の業務を進めていただきたいと思います。

YOASOBI『群青』の歌詞にもあるとおり、「好きなことを続けること」それは「楽しい」だけではありません。うまくいかないこと、つらいことも当然あります。不安な気持ちもたくさんあると思いますが、失敗したこと、経験したことを重ねていくことが自分の力となります。失敗を恐れず、楽しむ気持ちをもって仕事を進めてほしいと思います。

「全ては葛南地区12万人の子供たちのために」みんなで力を合わせて頑張らしましょう。

—ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかりやすい授業づくり」—

「心」を支え、「心」をくすぐろう！



【指導室 特別支援教育班】

葛南教育事務所では、令和3年度葛南教育事務所重点目標の一つとして、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた『わかりやすい授業づくり』」を掲げています。今回は、児童生徒が前向きな気持ちで授業に臨み、落ち着いて活動に取り組むことができるように、教師はどのようにして児童生徒の「心」を支えていくかということについて考えてみましょう。

「できない」「わからない」「うまくいかない」という経験を重ねてしまうと、児童生徒は自信を失い、心身に不調をきたしたり、行動が落ち着かなくなったりするという二次的な困り感を抱えることにつながっていきます。多様な児童生徒がいる集団だからこそ、教師は一人一人の「心」の動きに気付き、「心」を支え、あたたかな心が通い合う関係を築いていくことが大切です。

Point 1 興味関心が高まる工夫をしましょう！

- ★日常生活に結び付いている内容を取り上げる。
- ★ゲームやクイズの要素のあるやりとりを取り入れる。
- ★音を聞く、匂いをかぐ、触ってみる、シルエットを見る等、五感にはたらきかける活動を取り入れる。
- ★考えたくなるような発問や、注目したくなるような教材教具の提示をする。



- ★興味関心の対象は人それぞれです。一人一人がどのようなことに興味をもっているかを知り、児童生徒の興味関心に寄り添って授業を工夫してみましょう。

Point 2 自分で決めたり選んだりできるようにしましょう！

- ★人に決められたことよりも、自分で決めたことの方が頑張れることがあります。物事を自分（自分たち）で決めたり選んだりできる状況をつくってみましょう。

順序をペアで決めて取り組みましょう。わくわくプリントは最後ですよ。

- 1 九九カード
- 2 ドリル1ページ
- 3 3分きゅうけい
- 4 もんだいづくり
- 5 ★わくわくプリント★

決めました！がんばるぞ！



教室をきれいにしましょう。どこを掃除したらよいと思いますか？

扉の溝をピカピカにします！

本棚と本をきれいにします！



- ロッカーの上
- 扉の溝
- 廊下のフック
- 本棚と本



- ★課題や活動の種類を複数用意し、自分自身で選べるように選択肢を提示してみましょう。
- ★取り組む活動の順序を自分で決めるという方法もあります。楽しみな活動を励みにして、見通しをもって活動できるかもしれません。

Point 3 「できる／わかる」状況をつくり、 「褒める／認める」言葉をかけましょう！

★「できた！」「わかった！」「もっとやりたい！」「うれしい！」という気持ちをたくさん経験できるように、スモールステップの指導計画を立てましょう。そして、課題が「できる／わかる」ように手立てを整え、支援をしていきましょう。



★自分なりに努力している時や、少しでもステップアップした時には、すかさず褒めたり認めたりする言葉をかけましょう。大げさに褒めなくても、「よく気付いたね」「よく見ているね」「頑張っているね」「今やろうとしていたね」等のさりげない一言だけでも良いのです。褒め言葉のバリエーションを増やし、具体的に伝えていきましょう。

できたね！
がんばっているね！
今、やろうとしていたね！
元気がいいね！
お！いいね！
おもしろいね！



うれしい♪

★自己肯定感を高めていくために、「自分で自分を認められる」機会をつくっていきましょう。

今、自分としては
どうだった？
どう？うまくできた
んじゃない？



うまくできた！
がんばった！



★「他者から褒められてうれしい」という経験だけではなく、「自分で自分を認められてうれしい」という経験ができるよう意識して関わりましょう。

「できたシール」を
自分で貼りましょう！



できた♪
できた！ ベタ！



Point 4 助け合い、認め合い、 共に頑張れる集団づくりをしましょう！

★「人にはそれぞれ得意なことと不得意なことがある」「苦手なことは助け合う」「一人一人の頑張りを評価し合う」というようなことを、日頃から考えることができる学級集団づくりをしていきましょう。

★児童生徒が、それぞれの良いところや頑張っていること、成長したこと等をお互いに見付け合い、褒め合えるような活動を取り入れたり、教師が率先して児童生徒に伝えたりしていきましょう。

★一つの活動に対してゴールを一つに限定せず、個に応じたゴールを設定したり、様々な面から評価をしたりしていきましょう。



児童生徒は、教師の行動や、教師同士のやりとりもよく見ています。学校全体の教職員で、日頃から助け合い、認め合い、協力し合える集団づくりをし、児童生徒に行動で示していきましょう。

